

目指す学校像	学びを実感できる学校 安心で安全な学校 信頼され、地域の誇りとなる学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 個別最適な学びの実現と思考力、表現力の育成につなげるための授業改善とスキルの向上 2 安心で安全な教育の推進と配慮の必要な児童への教育支援・相談体制の充実 3 コミュニティスクールによる学校・地域・家庭との一層の連携 4 教師間の学び合いを主とした教職員研修の充実と管理職の教室訪問による授業力の向上
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価		
年 度 目 標		年 度 評 価		年 度 評 価		実施日令和5年2月13日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査においては、国語は、全国平均と比べて+5 Pと概ね良好な結果ではあり、算数では、平均に達している。 ○全国学力・学習状況調査において、自分の思っていることや感じていることを言葉で表せるかの設問で肯定的な回答が県平均より+2 Pであった。 ○児童の授業への参加態度はどの学年においても比較的良好で落ち着いており、真面目に取り組む児童が多い。 <課題> ○日頃の授業において既習事項をもとにした「自分の思いや考えを表現する力」が不足している傾向が見られる。 ○本校の国語科において効果的なICT機器の活用についての事例や共通理解が不足している。	・個別最適な学びの実現に向けた授業改善  ・思考力、表現力の育成のためのICT機器の効果的な活用	①スタディサプリ、ドリルパークを国語、算数の授業に効果的に取り入れていき、個別最適な学びの実現にむけて取り組んでいく。  ①教育委員会による指導者を招聘し、本校の学校課題研修で取り組むべき方向性と基本的な手立てを学校全体で共有し、全職員で推進していく。 ②思考力、表現力の育成のための効果的なICT機器の活用方法を試行錯誤しながら教材研究を深め、取り組んでいく。	①国語、算数について、学期末にスタディサプリやドリルパークの取組状況を担任を通じて確認し、児童が自分のペースで学習を進めるようになってきたが7割をとすることができたか。  ①よい授業のアンケート「因子4」の児童の活動の項目が全学級目標値+0.5以内になっているか。  ②国語科の授業を中心に、思考力、表現力育成のために、ICT機器を活用した話し合い活動、伝え合い活動が授業中に確保できているか。	①国語や算数の学力向上に向けて、学習ソフトスタディサプリやGIGA 端末の学習ソフトドリルパークなどを授業や家庭学習の課題に活用し、それぞれの学年の発達段階に合わせて活用していた。自分のペースで学習していく意識は低中学年ではまだ薄く、全体としては5割から6割程度にとどまっている。  ①よい授業のアンケートの「因子4」の結果では、目標値+0.5以内となっている学級が半数をしめた。児童の授業における主体的な活動を大切に授業が進められている。  ②ICT機器を活用した授業は、発達段階に合わせた効果的な活用方法でおれんじ学級も含めた全学年で授業に取り入れられている。1学期と比較すると児童の主体的な動きや発言は多くなってきている。	B	①GIGA 端末の学習ソフトを今年度以上に有効に活用することにより、個別最適な学びに近付けていく。家庭での学習状況をしっかり把握し、学年の実態に合わせた学習ソフトスタディサプリの活用法についても一度検討していく。  ①今年度得た学校としての授業力にさらにバージョンアップできるように思考力、表現力の育成を基にした研修を学校課題として取り組んでいる。  ②引き続き、基本的なICT機器を活用した授業を全学年実践していく。発達段階に適した個別最適化も視野に入れながら少しずつ工夫・改善を加えていく。	GIGA 端末の学習ソフトやスタディサプリを有効活用して個別の取り組みが見える評価につながっていくとよい。ICT機器を活用した授業と使わない授業のバランスをぜひ、大事にしてほしい。BではなくAでもいいぐらいの活動内容だった。今後さらにICT機器を利用した自己学習が大切になってくると思われる。取り組みに期待しています。年齢だけに配慮するのではなく個人差においても活用法については十分検討していく必要があるのかと思います。
2	<現状> ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の設問に肯定的な回答は全国・県平均とほぼ同じ割合であった。 ○市の学習状況調査では、生活習慣に関する調査自己肯定感が市の平均よりも低く、難しい課題に対しては、消極的な態度が見られる。 <課題> ○学習活動全般において、主体的に学ぶ姿勢がどの学年の児童においてもやや不足している。学校生活の多くの場面で、主体的な活動場を設定し、達成感を味わえるような体験を積み重ねていくことが課題である。	・児童一人ひとりの実態に適した教育支援・教育相談体制の充実  ・達成感の味わえる授業実践や学校行事等の教育活動の充実	①配慮を要する児童の個に応じた指導の実現のために、専門機関、関係機関と連携を図り、保護者とのパイプをより強化する。  ①コロナ禍で滞っていた、教育活動を洗い出し、感染対策を施しながら児童の主体的な活動が増えていけるように教務主任、各主任と連携を図り、進めていく。 ②授業及び学校行事において伝え合う活動や学び合う活動を取り入れ、主体的で深い学びができる環境を整えていく	①児童理解研修を毎月1回定期的に実施し、職員の共通理解を深め、随時、ケース会議を開催することができたか。  ①教務主任、特活主任、各主任と連携を図りながら、コロナ対策の為に自粛していた児童主体の集会活動、委員会活動、各行事を活性化し、主体的に学び合える行事が昨年度より増えたか。	①児童理解研修だけでなく、支援が必要な事案が発生すれば、迅速に対応し関係者も交えたケース会議をその都度開催することができた。活用しなくなったPCルームを学習室さくらんルームとして開設し、配慮が必要な児童の居場所として効果的に運用されている。  ①感染症対策を徹底しながら、デイサービスとの交流計画を再構築し、朝会、児童主体の集会行事など参集の形式で始めることができています。地域の方々、保護者からも好評である。	B	①定期的な児童理解研修だけでなく、適宜、教育相談後に事例を挙げて研修を行い、学校全体の教育支援の力とする。また、学習室の活用方法を再度見直し、配慮の必要な児童の保護者への啓発を進める。  ①引き続き、感染症対策を徹底しながらコロナ禍前の活力のある学校を目指す。そのために、各主任、教務とも今年度以上に連携を深め、授業内容、各行事をお互いの顔が見える学校生活に近付けるように見直していく。	学習室さくらんルームの開設は大変有効であると感じる。ここをステップとして教室に戻れる体制作りをお願いしたい。学校行事への参加はできるだけボランティアなども集め参加していきたい。活動内容も十分達成していたと思います。お互いの顔が見えることはとても大切なことだと思います。コロナ禍での取り組みについてしっかり検証し、単に元に戻すことだけでなく、今のニーズに適した内容について改めて考えていく必要があると思います。
3	<現状> ○昨年度コミュニティスクール準備委員会を立ち上げ、学校として地域・保護者と連携を深めながら、目指す児童像について熟議を重ねた。その中で元気のよいあいさつを推進していくことを共有した。 <課題> ○今年度は、新たな学校運営協議会のメンバーも加えてのスタートなので、昨年度末に準備委員会で話しあった目指す児童像について具体的に取り組めるように全体で共有する。	・目指す児童像を地域全体で共有するための情報発信  ・目指す児童像への具現化のための泰平小のプランの策定と実施。	①本校のコミュニティスクールの進捗状況をHPにアップし、地域に向けて情報を定期的に発信していく。  ①本校から近隣の高校までの一本道を泰平小学区あいさつ通りとして設定し、近隣学校と連携しながらあいさつキャンペーンを学期に1回以上定期的実施していく。	①学校評価のアンケートで保護者・地域への対応や教育活動の公開などの設問に肯定的に回答した割合が8割を超えたか。  ①学校評価のアンケートで、あいさつに係る設問に肯定的に回答した割合が、昨年度より+10 Pになったか。	①学校評価での保護者や地域への対応や教育活動の公開、連携・協力の設問には8割を超える肯定的な回答を得た。  ①コロナ対策もあり、小中高のあいさつの同時期の取り組みはできなかったが、それぞれの学校の計画による取り組みを実施した。本校ではあいさつスタンプラリーなどの取り組みも実施している。回答は昨年度とほぼ変わらない結果であった。	B	①地域、保護者の方々と交流する機会を確実に増やしていく。学校HPの更新も今年度よりスムーズに行い、学校の様子を随時発信していく。運動会、学校公開、授業参観等もコロナ禍前に近付け、児童の様子を知ってもらう機会を増やしていく。  ①職員自らも元気のよいあいさつを心掛け、模範となる姿勢を見せていく。また、好評であった挨拶キャンペーンでのスタンプなど工夫・改善を来年度も進め、新たなあいさつ推進のきっかけ作りを計画していく。	当たり前だと思ってしまう内容でも、どんどんHPにアップしていただきたい。あいさつ運動やスタンプラリーなどはぜひ、継続してもらいたい。地域や保護者の方であいさつの大切さを伝えられる場面などを設定するといいのではないかと。スタンプラリーの取組前と取組後の意識の違いとか調査してもいいのではないのでしょうか。素晴らしい充実した取り組みです。
4	<現状> ○エバンジェリストが中心となりICT機器の効果的な活用と実践事例が積み重なっており、授業や会議においても効果的に活用されている。 <課題> ○学校課題研究への取組において新しいICT機器の活用法を研究したり、教材研究を深めたりしてお互いが切磋琢磨して教師力の向上につながる環境作りが課題である。	・学校課題研究の解決に向けたICT機器活用の研究や若手教員の指導力向上研修も含めた、学び合いのできる研修体制作り。	①実習生への師範授業、公開授業、年次研修授業、学校課題研修の研究授業等、年間を通して一人1回はICT機器を活用した授業研究に取り組み、お互いに授業を見合う中でそれぞれの授業力の向上を目指す。 ②学校課題研修及び指導力向上研修や校長の計画的な教室訪問の指導・助言による授業力の向上に取り組む。	①全ての研究授業で、協議会かそれに代わる機会を設定し、お互いの授業改善とICT機器の技能スキルの向上が図れたか。  ②全ての教員が自らの自己評価シートの目標達成のために取り組み、主体的な深い学びのための授業改善ができたという職員が8割を超えたか。	①年間を通じて師範授業、公開授業、研究授業などお互いが授業を見せ合う場面を設定し、協議することにより授業改善を図ることができた。教育委員会の指導者からの指導・助言もしっかりと受け入れ、学校全体の授業力の向上につなげている。  ②ほとんどの教員が自分の掲げた目標達成のために授業への工夫・改善を意図的に実行し、ICT機器を活用した授業を実践することができていた。	B	①引き続き、来年度も一人ひとりの職員が年間を通して師範授業や公開授業、研究授業を実施し、授業を見せ合うことで授業力を高めていく。 ②来年度の職員の自己評価シートの目標に、今年度同様にICT機器を活用した授業実践を取り入れていく。また、児童が主体となって進めていく指導形態「コーチング」の意識も高めていく。	授業でのICT機器を活用した授業は中学校と情報交換できるとよいのではないかと思います。お互いが授業を見合うという活動は今後も継続してほしい。地域の方々にも公開授業に参加できるような体制があってほしいと思います。相手に意見や気持ち伝えるときには表現力が大切であることをぜひ学習してほしい。